

# タケトップ 遮熱

水性一液型 防水層用遮熱断熱保護塗料

《水性艶消し・骨材入り・弾性タイプ 軽歩行用》

## 特徴

- ① **環境配慮型塗料** 水性特殊アクリルエマルジョンを使用した安全性と作業性に優れた水性塗料です。
- ② **優れた遮熱断熱性** 赤外線反射に優れた顔料とセラミックパルーンの相乗効果で優れた遮熱性能を発揮します。
- ③ **防水層の保護** 遮熱断熱効果に優れている為、下地防水材を赤外線から長期的に保護します。  
また、弾性塗膜である為、下地の伸縮に追随し、耐久性・耐摩耗性にも優れています。

## 用途

タケシール#101・タケシール1液カラー防水・加硫ゴムシート・アスファルトシート・砂付ルーフィング等の保護、美装、遮熱断熱

## 塗装仕様

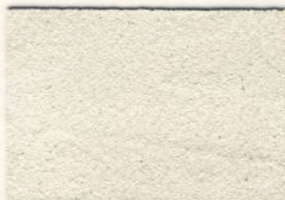
| 素地            | タケシール<br>#101   | タケシール<br>1液カラー防水                | ゴムアスファルト<br>シート                 | 砂付アスファルト<br>シート                          | 加硫<br>ゴムシート                     |
|---------------|---|---------------------------------|---------------------------------|--|---------------------------------|
| 素地調整          | ゴミ・埃・油分等の付着物を高圧洗浄機又はデッキブラシ等で水洗浄後十分に乾燥させて下さい。  |                                 |                                 |  |                                 |
| プライマー         | タケシール AQ層間プライマー塗布 0.1kg/m <sup>2</sup> ×1回塗り（無希釈）<br>※砂付アスファルトルーフィングの場合、骨材の粗さにより塗布量が多くなります。<br>塗装間隔2時間以上(20℃) |                                 |                                 | タケシール ゴムシートプライマー<br>0.2kg/m <sup>2</sup> |                                 |
| タケトップ<br>「遮熱」 | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>1回目   | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>1回目 | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>1回目 | 0.4~0.8kg/m <sup>2</sup><br>1回目          | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>1回目 |
| タケトップ<br>「遮熱」 | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>2回目   | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>2回目 | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>2回目 | 0.4~0.8kg/m <sup>2</sup><br>2回目          | 0.4~0.6kg/m <sup>2</sup><br>2回目 |

塗装間隔2時間以上(20℃) 塗装用具は、刷毛・ローラー  
塗装用具は、刷毛・ローラー・スプレー(モルタルガン・リジシガン)

●カラーゴムシートへの塗布はしないでください。塩ビシートへの塗布は別途ご相談ください

●ウレタン防水層にAQ層間プライマーを塗布する場合、事前にテスト塗布を行ってからタケトップ 遮熱を塗布してください。

## 標準色



ホワイト



グレイ

## 荷姿

タケトップ「遮熱」

1缶 20kg / 約125~25m<sup>2</sup>

※AQ層間プライマー約15kg/150m<sup>2</sup>・4kg/40m<sup>2</sup>・1kg/10m<sup>2</sup>

※ゴムシートプライマー約15kg/75m<sup>2</sup>・4kg/20m<sup>2</sup>

日 竹林化学工業株式会社

## 裏面温度比較データ

| 下地                      | タケシール<br>#101 | タケシール<br>1液カラー防水 | 砂付アスファルト<br>ルーフィング | ゴムアスファルト<br>シート | 加硫<br>ゴムシート |
|-------------------------|---------------|------------------|--------------------|-----------------|-------------|
| 裏面温度差                   | -14.4℃        | -16.3℃           | -17.6℃             | -28.9℃          | -18.2℃      |
| (タケトップ遮熱 塗布後<br>裏面温度) - | (43.9℃)       | (43.9℃)          | (43.6℃)            | (42.9℃)         | (44.1℃)     |
| (防水層裏面温度)               | (58.3℃)       | (60.2℃)          | (61.2℃)            | (71.8℃)         | (62.3℃)     |

注、上記のデータは夏場の晴天で気温32.5℃時に屋外で測定したものです。塗布色はホワイト

上記の表により、**タケトップ 遮熱**を塗布すれば、塗膜の表面・裏面の両面で温度上昇を抑えることができます。その為、熱による防水層の塗膜の劣化を防ぐとともに、建物内部の室内温度の上昇も抑えることができるので、夏場のエアコンの電気代も下げることが可能です。

### 塗 装 上 の 注 意 事 項

#### 【塗装の前】

- 気温5℃以下、湿度85%以上での塗装は避けて下さい。
- 強風時、塗装後6時間以内に降雨、積雪が予想される時は、塗装を避けてください。(素地、下地の処理)
- 塗装前に防水層の状態をよくし、破断、フクレ、剥離、摩耗など劣化の著しい場合には、防水層自体の改修を行ってください。
- 被塗面の埃、油分などを十分に取り除いて下さい。
- 下地、下塗りが、十分乾いていることを確認してください。
- ノンタールウレタン防水材上に使用する場合は、必ず AQ 層間プライマーをプライマーとして使用ください。また、事前にテスト塗装を行い、状態の確認の上、タケトップ 遮熱を塗装してください。
- タールウレタン防水材上への塗装は、しないでください。(塗装作業について)
- タケトップ 遮熱は水希釈しないでください。
- タケトップ 遮熱をやむをえず水で希釈する場合は、清水3%以下で行ってください。重質の骨材が配合されておりますので速やかに使いきってください。
- タケトップ 遮熱を水希釈しますと、以下の様な問題が起こり易くなります。
  - ・粘度低下により、缶内の骨材沈降が生ずる。
  - ・低粘度化により、塗膜厚が所定よりも薄くなる。
  - ・塗膜内で顔料の分離や骨材の沈降が起こり、塗膜の表面が滑らかになり、凹凸感がなくなったり、色むらを生じたりする。
  - ・塗膜表面に樹脂が浮き、表面はベタつき、下層部に骨材が沈降する。
  - ・塗膜層内分離を起こす為、塗膜組成が不均一になり、接着力が低下する。
 また、乾燥しにくくなり、残存水分が太陽熱により気化し、フクレの原因になる。
- 塗料は均一になるまで攪拌してからご使用下さい。また、泡を巻き込まないように、ご注意ください。
- タケトップ 遮熱の塗布量は、標準塗装仕様書に従って下さい。一度に厚く塗ると乾燥過程でクラックを生じたり、乾燥時間が長くなり、夜露などで造膜不良が生じやすくなります。
- 砂付ルーフィング等の凹凸の激しい下地で タケトップ 遮熱を塗装する場合、薄く塗りすぎると、隠蔽が悪くなったり、過度に厚くぬると、クラックが生じることが、あるので、規定量を均一に塗り付けてください。
- 初めての防水材に塗装する時は必ず施工前に予備テストを行い、異常がないことを確かめてからご使用下さい。
- 塗料は均一に塗り、タレ・溜まり・塗り残しがないようにしてください。特にコーナー部・ジョイント部等には、刷毛などで入念に塗り付けてください。但し、厚く付けないようにしてください。コーナー部分等はタレ・溜まりが起こりやすく、部分的に厚くなり、クラック・乾燥不良が起こることがあります。

#### 【塗装のあと】

- 塗装具は、刷毛、ローラー、スプレーガン等が使えますが、使用後は乾かないうちに洗ってください。
  - 使いかけの材料は必ず密封し、濡れたりしないように注意し、こぼれたものは速やかにふき取ってください。
- 【その他】
- 塗装完了後、初期に、急激な降雨があった場合、ドレン部等に泡が発生することがありますが、塗膜の異常によるものではありません。
  - 弊社仕様書以外の仕様によるクレームには一切責任を負いません。

### 取 扱 上 の 注 意 事 項

#### ○溶剤系塗料の場合

- 引火性液体ですので、火気のあるところでは使用しないでください。
- 吸入すると、有機溶剤中毒をおこす恐れがありますから、換気をよくし、蒸気・スプレーミストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
- 取扱作業場所には局所排気装置を設けてください。
  - ・有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク・頭巾長袖の作業着・えりタオル・保護手袋・前掛けなど
- 臭いは食料品・飲食物・衣類などにつながる場合がありますので、作業場所から遠ざけるまたは養生するなどして、十分注意してください。
- 容器から取り出す時はこぼれにくいようにしてください。もしこぼれた場合には、布でふき取って、水の入った容器に保管してください。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器または粉末消火器を用い初期消火をしてください。

#### ○水系塗料の場合

- 取扱中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
    - ・防護マスク・頭巾・保護メガネ・長袖の作業着・襟巻タオル・保護手袋・前掛けなど
  - 容器から取り出す時はこぼれにくいようにしてください。もしこぼれた場合には、布やウエスでふき取るか、砂などを散布した後、処理してください。
- 溶剤系塗料・水系塗料の共通注意事項
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化がある時は、医師の診察を受けて下さい。
  - 蒸気、臭いなどを吸い込んで気分が悪くなった時は、空気清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けて下さい。
  - 目に入った場合には直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
  - 誤って飲み込んだときは、直ちに医師の診察を受けて下さい。
  - 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分行って下さい。
  - 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管して下さい。特に下記場所の保管は避けて下さい。
    - ・雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
  - 捨てる時は、産業廃棄物として処理して下さい。
  - 詳細な内容が必要な時は、製品安全データシート(MSDS)をご参照して下さい。

## ■ 竹林化学工業株式会社

☎577-0836

東大阪市渋川町3-1-43

TEL 06-6721-6165(代)

FAX 06-6720-7308